

英国の社会インフラとなった高速鉄道車両(Class800)システムの意匠——令和元年度全国発明表彰恩賜発明賞受賞

株式会社日立製作所 東京社会イノベーション協創センター プロダクトデザイン部 主任デザイナー 高田裕一郎

株式会社日立製作所は「英国の社会インフラとなった高速鉄道車両(Class800)システムの意匠」により令和元年度全国発明表彰恩賜発明賞を受賞しました。最高賞である恩賜発明賞において意匠の受賞はこれが初めてです。

同社が開発した英国IEP（都市間高速鉄道計画）向け高速車両Class800[写真1]は車両デザインと機能のみならず、2017年10月の営業開始後、英国の交通手段として生活に不可欠な存在になったことも評価の対象となりました。本稿では同社が開発したClass800のデザインとその知的財産戦略から、受賞につながったポイントをご紹介します。

1. 英国市場への挑戦

1) 国内市場からの飛躍を求めて

当社では、鉄道事業の分野においては、1920年の蒸気機関車製造に始まり、電気機関車、電車、モノ

レール、新幹線など、時代のニーズに合わせた車両製造や制御システムの開発等を行ってきました。近年では鉄道総合メーカーに成長し、主に国内鉄道各社からの依頼による事業を展開してきました。国内需要は比較的堅調を維持していますが、さらなる飛躍を求めて1998年頃から英国市場への事業拡大を検討し始めました。

その理由は以下の通りです。

1. オープンな市場：英国は鉄道発祥の国でありながら、自国資本の車両メーカーが存在せず、日系メーカーも参入していませんでした。既に「ビッグ3」と呼ばれるシーメンス（独）、アルストム（仏）、ボンバルディア（加）3社の寡占状態でしたが、我々の技術・品質があれば十分に市場参入の可能性があると考えました。

2. 政府主導による積極投資：英国では1994年の国

●写真1 英国高速鉄道車両Class800

